

## 第3章 目指すべき都市像とまちづくりの重要概念

この章では、第2章の札幌市の現在と将来に関する考察を踏まえ、今後のまちづくりを進めるに当たり、市民、企業、行政などの多様な主体が共有する札幌市の将来のまちの姿を、「目指すべき都市像」として掲げるとともに、この都市像の実現に向けて、まちづくりを進めていく上での重要な概念を「まちづくりの重要概念」として定めます。

### 1 札幌市の現在と将来に関する考察のまとめ

札幌市は、自然の恵みと共に暮らしてきた人たちと、日本各地から移り住んできた人たちが、北の大地でそれぞれの伝統と文化を紡ぎ、育みながら、外国の先進の英知を取り入れていくという、様々な「ひと」のつながり・支え合いや多様性を受け入れる風土によって、短期間で飛躍的な成長を遂げてきました。

今では、年間約5mもの「ゆき」が降る地域にありながら、190万人を超える市民が生活するという、世界でもまれな都市に発展しています。また、北海道の中心都市として、都市機能を高めながらも、郊外に広がる森林や都心の大通公園などの豊かな「みどり」を保っています。

この「ゆき」との共生や「みどり」との調和も札幌市が持つ魅力であり、これらを生かして、さっぽろ雪まつりやアジア初の第11回冬季オリンピック競技大会の開催、札幌芸術の森やモエレ沼公園の造成などの世界に誇るプロジェクトを成功させてきました。

このような特徴を持つ札幌市は、令和4年（2022年）に市制施行100周年を迎え、次なる100年のスタート地点にいます。一方で、これまで増加の一途をたどってきた人口も減少局面を迎え、少子高齢化や生産年齢人口の減少が更に進行し、これらに起因して市内経済規模の縮小や公共交通の利便性の低下などの日常生活への影響が懸念されるほか、長期的な市税収入の減少や社会保障などの財政需要の増大により、行政サービスの低下につながりかねない状況となっています。

また、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大は、市民生活や社会経済活動に大きな影響を及ぼしており、こうした感染症との共存や感染症の収束後を見据えた取組も必要です。さらに、令和12年（2030年）までの持続可能な開発目標（SDGs）の達成や、脱炭素社会の実現に向け、国際社会の一員としての取組を加速させていく時期でもあります。

このため、今後は、人口減少の緩和を進めることはもとより、人口構造を始めとする様々な変化に大きな影響を受けず、その変化を積極的に生かし持続的に成長していくことが必要です。

### 2 目指すべき都市像とまちづくりの重要概念

札幌市の特徴である「ゆき」や「みどり」といった自然の恵みが守られ、さらには生かされた中で、子どもから大人までのあらゆる世代の「ひと」や多様な「ひと」が交わり、一人一人の思いがつながって、新しい時代にふさわしい真に豊かな暮らしを創る、また、経済や学術、スポーツ、文化、健康、環境などの様々な分野において、新たな価値を生み出す。このことで、国内外から活力を呼び込み、人口減少などの成熟社会における課題をいち早く解決する拠点として、世界をリードし、持続可能で、多様性と包摂性のある世界都市<sup>105</sup>を目指します。

<sup>105</sup> 【世界都市】ここでは、政治や経済、文化などの分野において、世界に対して高い影響力を持つ都市をいう。

そのためには、誰もが互いにその個性や能力を認め合い、多様性が強みとなっていること、誰もが生涯健康で、学び、自分らしく活躍できていること、誰もが先端技術などにより快適に暮らし、新たな価値の創出に挑戦できることが重要です。そこで、「目指すべき都市像」と「まちづくりの重要概念」を次のとおり定めます。

## <目指すべき都市像>

「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなす輝きが、豊かな暮らしと  
新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろ

## <まちづくりの重要概念>

### ユニバーサル(共生)

「誰もが互いにその個性や能力を認め合い、多様性が強みとなる社会」を実現するに当たっては、多様性と包摂性があり、格差なく均等に機会が得られる社会の実現を目指して、移動環境や建物等のバリアフリー化や心のバリアフリーなどを進め、日常生活を始めとして様々な場面における障壁や困難を解消し、誰もが他者とつながり、交流できる環境を整えていくことが必要になります。

そこで、「誰もが多様性を尊重し、互いに手を携え、心豊かにつながること。また、支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うこと」を「ユニバーサル(共生)」として「まちづくりの重要概念」に定めます。

### ウェルネス(健康)

「誰もが生涯健康で、学び、自分らしく活躍できる社会」を実現するに当たっては、人生100年時代の到来を踏まえ、健康寿命の延伸の観点から、働く世代や若年層を対象とした「予防・健康づくり」や、居心地が良く歩きたくなる空間の形成などが必要になるほか、生涯学習や学び直しの場とともに、年齢の枠に捉われず、学習の成果や経験を生かす機会の充実などが求められています。

そこで、「誰もが幸せを感じながら生活し、生涯現役として活躍できること。身体的・精神的・社会的に健康であること」を「ウェルネス(健康)」として「まちづくりの重要概念」に定めます。

### スマート(快適・先端)

「誰もが先端技術などにより快適に暮らし、新たな価値の創出に挑戦できる社会」を実現するに当たっては、デジタル技術の急速な進歩を踏まえ、様々な資源を掛け合わせ、新たな価値を生み出していく観点から、スマートシティの推進、スタートアップを創出・育成する環境の整備や知的生産を行う人材の育成のほか、「ゆき」の利活用の取組が必要です。また、気候変動などの地球環境の状況を踏まえ、ゼロカーボンやレジリエンス(自己回復力・強じん性)の向上に資する取組が求められています。

そこで、「誰もが先端技術などの利点を享受でき、生活の快適性やまちの魅力が高まっていること。誰もが新たな価値や可能性の創出に向けて、挑戦できること」を「スマート(快適・先端)」として「まちづくりの重要概念」に定めます。

## 目指すべき都市像とまちづくりの重要概念

### 第2章「札幌市の現在と将来に関する考察」

札幌市の歴史 札幌市の魅力・特徴 第1次戦略ビジョンに基づくまちづくりの取組結果  
昨今の社会経済情勢 SDGsの視点から見た札幌市 オリンピック・パラリンピック冬  
季競技大会の招致

#### <札幌市の現在と将来に関する考察のまとめ>

人口減少の緩和を進めることはもとより、人口構造を始めとする様々な変化に大きな影響を受けず、その変化を積極的に生かし持続的に成長していくことが必要

#### 目指すべき都市像

「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなす輝きが、豊かな暮らしと  
新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろ

#### まちづくりの重要概念

##### ユニバーサル(共生)

誰もが互いにその個性  
や能力を認め合い、多  
様性が強みとなる社会  
の実現

##### ウェルネス(健康)

誰もが生涯健康で、学  
び、自分らしく活躍で  
きる社会の実現

##### スマート(快適・先端)

誰もが先端技術などに  
より快適に暮らし、新  
たな価値の創出に挑戦  
できる社会の実現

## 6 スポーツ・文化

### 考 察

豊富な降雪量と都市機能を合わせ持つ世界でも希少な環境を生かし、身近なところでウィンタースポーツを楽しむことができているとともに、ウィンタースポーツの大規模な国際大会を開催することで、世界から注目が集まっていることが重要です。

また、価値観やライフスタイルが多様化し、人生100年時代が到来する中、四季を通じて誰もがスポーツを楽しむことができる（する・みる・ささえる）環境が整い、身体活動や競技としてのスポーツの振興が進んでいるとともに、健康増進や共生社会の実現、地域活性化などの社会課題が解決されていることも必要です。

さらに、文化芸術に親しむことができ、創作や表現ができる環境と文化芸術を通じた学びや交流の機会が充実することなどにより、心の豊かさや創造性が育まれているとともに、国際的な文化芸術イベントの開催や様々な分野との連携が進んでいることがまちの魅力となり、にぎわいが生まれていることが求められます。

### 基本目標13 世界屈指のウィンタースポーツシティ

#### 目指す姿

- 1 身近なところでウィンタースポーツを楽しむことのできる環境が充実しています。また、札幌市で育ったウィンタースポーツのアスリートが国内外で活躍しています。
- 2 豊富な降雪量と都市機能を合わせ持つ世界でも希少な環境を生かして、大規模なウィンタースポーツ大会を誘致・開催し、世界から注目されています。





## 私たちが取り組むこと

目指す姿	市民・企業など	行政
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○積極的なウィンタースポーツへの参加</li> <li>○アスリートの雇用や支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ウィンタースポーツに参加しやすい環境づくり</li> <li>○ウィンタースポーツに関する環境の向上や施設の機能向上などへの支援</li> <li>○スポーツに取り組む子どもたちの発掘やスポーツ施設の戦略的な活用によるアスリートの育成</li> <li>○ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点<sup>124</sup>の活用の促進に向けた仕組みづくり</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大会開催への支援や協力</li> <li>○来札者へのおもてなし</li> <li>○スポーツボランティアによる大会運営の支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大規模大会の誘致・開催</li> <li>○ウィンタースポーツの観戦文化の醸成</li> <li>○大会を契機としたシティプロモート<sup>125</sup></li> <li>○大会運営を支える人材育成の支援</li> </ul>

<sup>124</sup> 【ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点】冬季競技など、「味の素ナショナルトレーニングセンター」では対応できない競技について、各競技の選手強化活動のために国が指定した施設。科学・医学・情報面のサポート環境の高機能化などが行われている。札幌市内では札幌市大倉山ジャンプ競技場・札幌市宮の森ジャンプ競技場・西岡バイアスロン競技場が指定されている。

<sup>125</sup> 【シティプロモート】まちの魅力を再発見し、創造することで新しい都市の輝きをつくり出すとともに、市民が誇りをもってその魅力を内外に発信することで、世界の人々と多様な関係を築くための一連の活動

## 基本目標1 4 四季を通じて誰もがスポーツを楽しむことができるまち

### 目指す姿

- 1 誰もがスポーツを楽しみながら、心身共に健康で充実した生活を送っています。また、スポーツで得られた知見が市民の健康づくりなどに生かされています。
- 2 スポーツをきっかけに国内外から人が訪れ、地域経済が活性化しています。



### 私たちが取り組むこと

目指す姿	市民・企業など	行政
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○積極的な参加（する・みる・ささえる）や交流</li> <li>○積極的な参加の促進</li> <li>○民間スポーツ施設の整備やアスリートの雇用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○誰もが気軽に参加しやすい環境づくり</li> <li>○アスリートと連携したスポーツ施策の推進</li> <li>○障がい者スポーツの普及の促進</li> <li>○トップレベルのスポーツを「みる」環境の充実</li> <li>○スポーツで得られた医科学的知見を市民に還元する仕組みづくり</li> <li>○スポーツ分野におけるICT活用の促進</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スポーツイベントに合わせた交流</li> <li>○来札者へのおもてなし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スポーツによるまちづくり</li> <li>○スノーリゾートとしてのブランド化</li> <li>○スポーツツーリズム<sup>126</sup>の推進</li> <li>○スポーツ大会の誘致・開催</li> <li>○障がい者スポーツ大会の誘致・開催</li> <li>○アーバンスポーツ<sup>127</sup>やバーチャルスポーツ<sup>128</sup>などの大会の誘致・開催</li> </ul>

<sup>126</sup> 【スポーツツーリズム】スポーツを「みる」「する」ための旅行そのものや周辺地域における観光に加え、スポーツを「ささえる」人々との交流、あるいは生涯スポーツの観点からビジネスなどの多目的な旅行者に対し、旅行先の地域でも主体的にスポーツに親しむことのできる環境の整備、そしてMICE推進の要となる国際競技大会の招致・開催、合宿の招致をも包含した、複合的でこれまでにない「豊かな旅行スタイルの創造」を目指すもの。国土交通省「スポーツツーリズム推進基本方針」におけるスポーツツーリズムと同義

<sup>127</sup> 【アーバンスポーツ】ボルダリング（スポーツクライミング）、BMX（自転車）、スケートボード、3x3（バスケットボール）などの都市型スポーツ

<sup>128</sup> 【バーチャルスポーツ】実際に身体を動かしながら、オンライン上の仮想空間で競うスポーツ